

Reference number PY02104: Dispatched number:009670 Dispatched date:2005/1/13

Notice of Rejection

Application number	JPA2002-257773
Draw up date	2005/1/5
Examiner	Minoru Taga 9367 5N00
Representative for the application	Toshiyuki Yokoi (and other)
Applied article of patent law	Article 29.2, 36

The application should be rejected because of the reason followed. You are allowed to submit remarks if you would like to rebut with in 60 days from the dispatched date.

Reason

The following claimed inventions are not allowed to be patent by the article 29.2 because they are easily invented with the invention publicized in Japan or foreign country before the application date or inventions which became available through the communication cable by a person within the art which the invention belonged to.

(As to the claims 1-3,6,7) reference 1-3

SIMM card in the reference 1 generate master signals, RAS signals and additional address signals based on a plurality of RAS signals. (please refer fig 3,5,6,8)

(As to the claims 4,5) reference 1-3

SDRAM memory module was available at the time of the application, further CS signals are disclosed due to lack of address signals. It is not difficult to apply invention in the claim 1 to memory module with SDRAM memory module.

(As to the claims 8,9) reference 1-3

A supplemental memory module in the claim 8,9 are merely claimed excluding memory parts in the memory module of the claim 1,7. Thus as mentioned above for the claims 1-3,6,7, a person in the art could have easily invented.

(As to the claim 6)

The invention in the claim 6 ends with "a supplemental memory module", but referred claims 1 to 5 are the invention for the memory module, thus they are not in accord. Therefore it is uncertain that invention is for the supplemental memory module or the memory module.

The claimed invention in the claim 6 is not definite.

A list of references

1. Japanese patent gazette JP 1997-231747
2. Basic character of memory IC and memory IC application handbook, written by Tadasi OKADA, published by CQ publication Inc., published on 1991/8/10, 3rd revised, pp20-23
3. Japanese patent gazette JP 1986-134982

Inventions not pointed within the notice above are not found with any applicable rejecting reason at the present. If further reasons for rejecting them are found, then they will be noticed.

Searched classification IPC 7th revised version G06F12/00-06

Name of DB (not described)

Prior art references (not described)

Records of the result of search for prior art references does not consists of rejecting reason.

整理番号:PY02104 発送番号:009670 発送日:平成17年 1月13日 1

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2002-257773
起案日	平成17年 1月 5日
特許庁審査官	多賀 実 9367 5N00
特許出願人代理人	横井 俊之(外 1名) 様
適用条文	第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

a. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

【請求項1-3, 6, 7について】 引用文献: 1-3

引用文献1記載のSIMMカードにおいても、複数のRAS信号(RAS0, RAS1)に基づいて、MASTER RAS信号を生成すると共に追加のアドレス(A10)を生成しており(特に、図面第3, 5, 6, 8図参照)、本願発明と格別相違しない。

(なお、引用文献2第22頁左欄第1乃至6行目に記載されているように、非同期DRAMにおけるRAS信号は、チップセレクト信号としての役割を果たす信号であるから、本願の「セレクト信号」に相当する信号である。

さらに必要があれば、引用文献3も参照されたい。引用文献3第2頁左上欄には「チップ・セレクト信号”CS”をエンコードして、アドレス信号A12, A13を作り出す」との記載があり、不足するアドレス信号を生成するもとなる信号として、チップセレクト(CS)信号が教示されている)。

【請求項4, 5について】 引用文献: 1-3

本願出願時において、メモリモジュールに搭載するメモリとしてSDRAMを用いることは周知であること、及び、引用文献3に、不足するアドレス信号を生成するもとなる信号として、CS信号が教示されていることから見て、引用文

献1記載の発明を、SDRAMを搭載したメモリモジュールに適用することに、特段の困難性は認められない。

SDRAMにおいてはクロックイネーブル信号を供給する必要があるが、コンピュータ本体から入力した複数のクロックイネーブル信号のいずれかが有効状態であるときに、SDRAM用クロックイネーブル信号を有効状態とし、入力した複数のクロックイネーブル信号の全てが無効状態の時、SDRAM用クロックイネーブル信号を無効状態とする論理により生成することは、引用文献1記載の発明におけるRAS信号の生成論理を参考にして、容易に想到されることである。

【請求項8, 9について】 引用文献: 1-3

請求項8, 9のメモリ用補助モジュールは、請求項1, 7のメモリモジュールからメモリ部分を除いたものを特許請求したものに過ぎないから、上記【請求項1-3, 6, 7について】の記載と同様の理由により、当業者が容易に想到し得るものである。

b. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

請求項6に係る発明について、

【請求項6】の末尾には「メモリ補助モジュール」と記載されているが、引用する請求項1~5は「メモリモジュール」であり、両者が整合していない。その結果、特許請求の対象が「メモリ補助モジュール」なのか「メモリモジュール」なのか、不明確である。

よって、請求項6に係る発明は明確でない。

引用文献等一覧

1. 特開平9-231747号公報
2. 岡田正, メモリICの基本特性, メモリIC活用ハンドブック,
日本, CQ出版株式会社, 1991年8月10日, 第3版,
p. 20-23
3. 特開昭61-134982号公報

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

- ・調査した分野 IPC第7版
 G06F12/00-06
 DB名
- ・先行技術文献

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。